

# 36期環境活動レポート

## フジセイコー株式会社

レポートの対象期間：平成28年6月～平成29年5月

発行日：2017年11月 24日

### 《目次》

挨拶	.....	P1
1、環境方針	.....	P1
2、事業概要	.....	P2
3、対象範囲	.....	P2
4、環境負荷の推移	.....	P3～4
5、環境項目と環境活動計画	.....	P5
6、環境目標と達成状況	.....	P6
7、環境目標の取組みの結果と評価	.....	P7
8、環境関連法規への違反、訴訟等の有無	.....	P8
9、代表者による全体の評価と見直しの結果	.....	P8

## ◇ご挨拶

21世紀が依然として技術革新の時代であることは間違いありません。むしろ情報技術の発達によって革新のスピードが加速しております。

こうした時代の中、技術革新のスピードが特に速いといわれる半導体業界の関連企業として「ものづくり」に独自性・革新性を発揮し、産業の発展に少なからず貢献しております。

また、これからの時代は、環境に配慮した企業経営も欠かせません。当社ではエコアクション21の運営を継続し、地球環境の保全に努めてまいります。

このたび、36期の環境活動レポートを作成いたしました。ご高覧いただければ幸いです。

フジセイコー株式会社

代表取締役社長 荻久保 太一

## 1. 環境方針

### 【経営理念】

当社は、信用・信頼・協調の「精神」と、新しい可能性を追求する「技術」を経営資源として、モノ作りに独自性・革新性を発揮し、お客様に選ばれる企業となり、産業の発展に貢献します。

当社は、地球環境保全を最優先課題と認識し、環境に配慮した企業経営に取り組みます。

### 【行動指針】

当社は、切断・研削・ラップ・研磨加工の各プロセスにおいて、下記目標を設定し、自然の豊かさをいつまでも維持できる環境活動に取り組みます。

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物削減を行うことにより環境への負荷の低減に努めます。
2. 環境に負荷を与えない化学物質の選択に努めます。
3. 事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、可能な範囲で環境目標を設定。これを実行すると共に定期的な見直しを行い、環境活動の継続的改善に努めます。
4. 環境に関連する法規、規制、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

制定日 2005年 8月20日

フジセイコー株式会社

代表取締役社長 荻久保 太一

## 2. 事業概要

### 1. 事業所名及び代表者名

フジセイコー株式会社

代表取締役社長 萩久保太一

### 2. 工場・所在地

【本社工場】

〒379-0135 群馬県安中市郷原939-1

【磯部工場】

〒379-0126 群馬県安中市西上磯部771-1

### 3. 環境関係の責任者及び担当者の連絡先

環境管理責任者：工場長 大澤 隆

担当者：EA21 推進事務局 山岸和昭 須藤寛

連絡先 電話 027-385-3641

FAX 027-385-3577

ホームページ URL <http://www.fj-seiko.co.jp>

### 4. 事業の内容

硬質脆性素材（シリコン・石英ガラス・セラミックス等）の切断・研削・ラップ・研磨加工

### 5. 事業規模

資本金：9000万円

	従業員数	敷地面積	床面積
本社工場	69人	13,882m <sup>2</sup>	2,820m <sup>2</sup>
磯部工場	8人	4,076m <sup>2</sup>	1,082m <sup>2</sup>
合計	77人	17,958m <sup>2</sup>	3,902m <sup>2</sup>

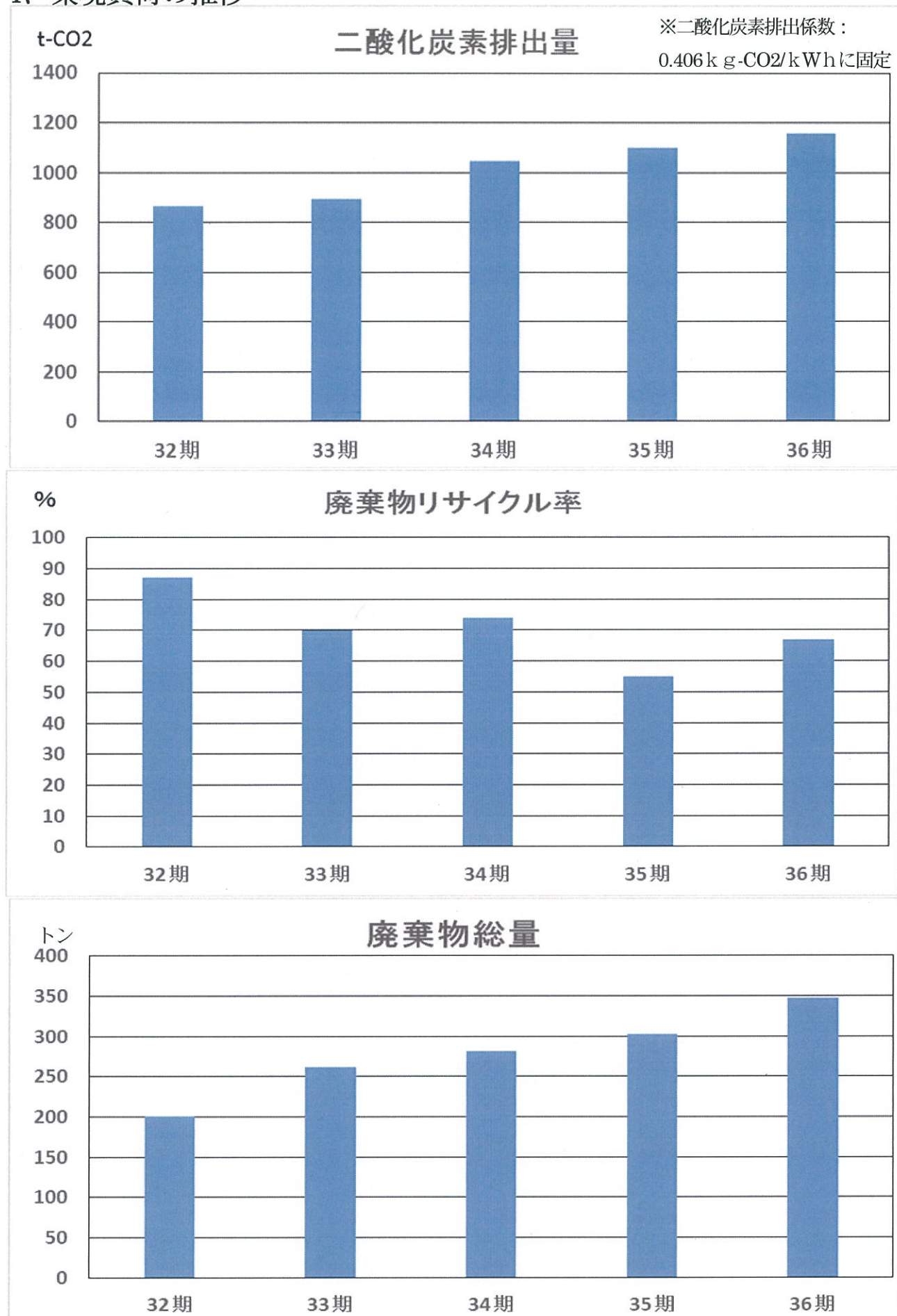
### 6. 事業年度

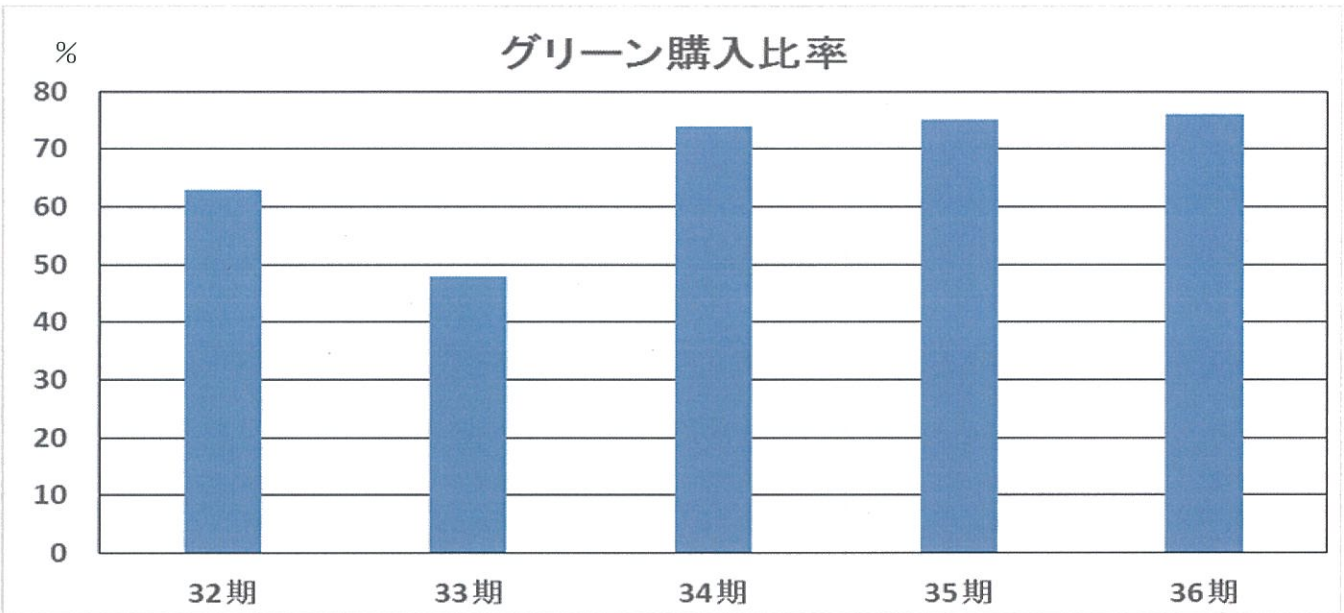
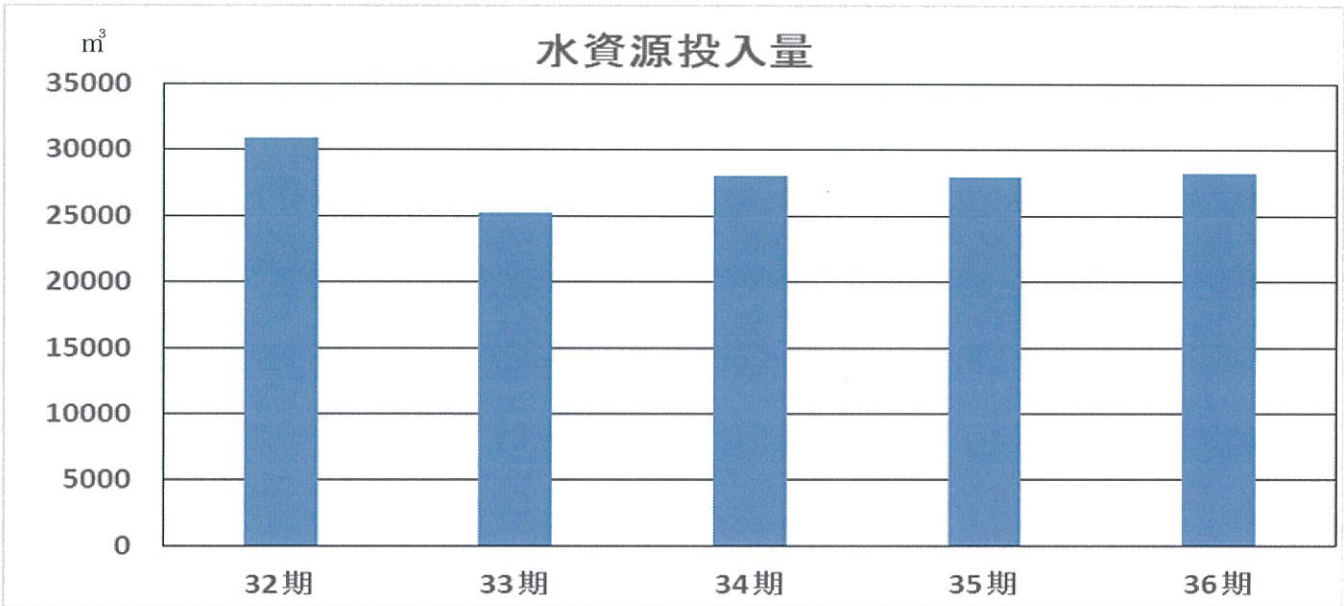
6月～5月

## 3. 対象範囲

エコアクション21の認証・登録は事業概要で記した範囲を対象とします。

#### 4、環境負荷の推移





## 5、環境項目と環境活動計画

環境項目	環境活動項目	環境活動計画
二酸化炭素排出量の削減	空調温度の適温化 フィルター清掃	各部屋のエアコンの設定温度を夏場（7～9月）と冬場（1～3月）で決め、運用します。 空調機のフィルターを年2回清掃します。
	節電チェック活動	毎月の巡視にて無駄な電気の使用があるか、確認します。
	化石燃料の削減	エコドライブの教育を実施します。 車両にエコドライブを心がけるような表示をします。
	デマンド管理	目標電力を設定し、目標を超えそうになった場合に警報を鳴らし、手順書に従い最大需要電力を抑える行動を実施します。
廃棄物のリサイクル化と削減	汚泥の天日乾燥	汚泥を天日乾燥させ、重量の削減を行います。
	廃棄物の処分先を定期的を確認する	契約書や許可証の確認をします。 直接、処分場の確認をします。
	不要在庫の削減	長期間在庫になっているものの整理と誤発注による在庫を防止します。
水資源投入量の削減	水使用量の多い工程の削減検討	作業場から問題点を見つけ出し、改善できるか検討する。
	水の無駄遣いチェック	毎日の水道使用量を調査します。 職場巡視にて、無駄遣いチェックをします。
	水の漏洩チェック	巡視やチェックシートを利用し、配管類から水漏れしていないかチェックします。
化学物質の削減	対象化学物質の代替品への移行	代替品を選定し、テストを実施し、結果問題無い物は、随時切り替えていきます。
事務系資材のグリーン購入	グリーン購入比率の向上	エコマークでない商品をエコマーク商品への代替を進めます。
本業エコ	生産性向上	最新機械導入による生産効率向上を検討
		加工工程の改善

## 6、36期環境目標及びその実績

項目	年度	33～35期平均 (基準年度)	36期		37期 目標	38期 目標
			目標	実績		
二酸化炭素 排出量の削減	トン-CO2	1,000	1,000	1,155.6	990	980
	基準年費	—	100%	115.6%	99%	98%
	数値目標	—	—	×	—	—
リサイクル率向上	%	66	66	66%	68	70
	基準年費	—	100%	増減なし	103%	106%
	数値目標	—	—	○	—	—
一般廃棄物の削減	トン	9.0	9.0	7.93	8.91	8.82
	基準年費	—	100%	87.8%	99%	98%
	数値目標	—	—	○	—	—
ダンボール廃棄量 の削減	トン	1.3	1.3	1.04	1.29	1.27
	基準年費	—	100%	80.0%	99%	98%
	数値目標	—	—	○	—	—
産業廃棄物の削減	トン	271	268	346.5	266	263
	基準年費	—	99%	129.3%	98%	98%
	数値目標	—	—	×	—	—
水資源投入量の 削減	m <sup>3</sup>	27,000	27,000	28,291.5	26,730	26,460
	基準年費	—	100%	104.8%	99%	98%
	数値目標	—	—	×	—	—
化学物質の削減	kg	4,700	4,700	6,175	6,110	6,110
	基準年費	—	100%	131.4%	130%	130%
	数値目標	—	—	×	—	—
グリーン購入	%	65	75	76	77	78
	基準年費	—	115%	1ポイントup	118%	120%
	数値目標	—	—	○	—	—
本業エコ 時間当たりの生 産性向上	%	100	100.5	110.6	101	101.5
	基準年費	—	—	110%	101%	101.5%
	数値目標	—	—	○	—	—

数値目標：○達成 ×未達成

## 7、環境目標の取り組みの結果と評価

環境項目	取り組みの結果	評価と次年度の方向性
二酸化炭素排出量の削減	<p>総量については前期比5.1%の増加となりましたが、売上げが11.7%増になっています。</p> <p>今期は新規機械の導入、エアコンの入れ替え等を実施した結果、電気使用量が9.2%増となりました。</p> <p>また社用車の入替、エコドライブの推進により燃費が2.8%改善することが出来ました。</p>	<p>今後も生産量の増加に伴い、電気使用量の増加が見込まれています。いかに前期の電気使用量を上回らないようにするかが今後の課題になります。</p> <p>引き続き設備の見直し、エアコンの設定温度の維持に努めます。</p>
廃棄物のリサイクル化と削減	<p>廃棄物量は35期と比較すると一般廃棄物が約20%減、産業廃棄物は、約24%増と、売上増加と共に産業廃棄物も増加する結果となりました。</p> <p>リサイクル率については前期と同じ結果になりました。水処理汚泥のリサイクル化は進みましたが生産増加に伴う強酸の埋め立てが増加したことが前年同様になる結果になりました。</p>	<p>今期は生産量の増加に伴い、産業廃棄物も増える結果となってしまいました。資材についても前期と同様、効率良く使用しましたが結果増えてしまいました。</p> <p>磯部工場改築時に不用品の処分を進めたため、今後は誤発注の抑制に努めます。</p> <p>また強酸のリサイクル化が可能か処分業者と検討します。</p>
水資源投入量の削減	<p>水資源投入量は、35期より1.2%増加しております。水の使用量は増加しましたが、固定的に使用されている純水は生産増に伴い2.2%の増加となりました。それ以外の部分では1%の削減となりました。節水及び効率よく使用できた結果となりました。</p>	<p>今期は固定的に使用されている純水以外での節水の心がけが反映される結果となりました。</p> <p>現状を維持しつつ、再度効率よく水を使用できないか検討し、更なる削減につながるようにします。</p>
化学物質の削減	<p>化学物質は、35期より20%増加しており、化学物質の使用量は、生産活動とほぼ連動している状況になっています。</p> <p>代替品への変更についても現状と同等レベルへの選定が難しく、変更に至らない状況となっています。</p>	<p>代替品への変更が不可な製品については効率よく使用することで使用量の削減を検討します。</p> <p>引き続き化学薬品の取り扱い、及び保管方法を遵守し、安全に使用するように努めます。</p> <p>現状では削減が厳しいため次年度目標値を、36期を上回らないように変更します。</p>
事務系資材のグリーン購入	<p>エコマーク商品を選択することで前期よりも増加することが出来ました。</p>	<p>引き続きエコマーク商品の購入と変更可能なものについては積極的に切り替えを行うようにします。</p>
本業エコ	<p>今期は磯部工場の改築を行い、新規設備の増設、洗浄設備の更新を行い、生産性の向上することが出来ました。</p>	<p>新規に導入した機械が順調に生産することが出来ました。</p> <p>引き続き加工工程の改善を検討していきます。</p>



## 8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### 1) 当社適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	該当する活動	遵守評価
水質汚濁防止法	排水処理施設の維持管理	○
騒音規正法	コンプレッサー騒音の測定	○
振動規正法	コンプレッサー振動の測定	○
PRTR 法	指定化学物質の排出・移動量の届出	○
消防法	消防計画	○
廃棄物処理法	一般廃棄物・産業廃棄物の排出	○
毒物劇物取締法	毒物劇物の保管・取扱の管理	○
浄化槽法	浄化槽の保守点検	○
労働安全衛生法	有害物質・化学物質の取扱	○
フロン排出抑制法	室外機の定期点検	○

2) 「環境に関連する法規制の遵守」については、関係機関等からの違反についての指摘等はありませんでした。

また、訴訟等もありませんでした。

3) 外部からの苦情等はありませんでした。

## 9. 代表者による全体の評価と見直しの結果

### 1) 評価

36 期の結果から目標値に対し、未達成項目が多い結果となってしまいました。生産の増加に伴う資源の投入量が多くなったため、目標値を達成できなかった要因となりました。社内的にも設備の入れ替え、廃棄物業者の検討、工程内の検討等を行い、改善された点も確認は出来ました。

### 2) 見直しの結果

結果としては厳しいものになってしまいました。引き続き機械メンテナンスの実施、新規設備との入れ替え等を行い、省エネになるように努めます。

活動状況がマンネリ化している部分もあるため、全社員に改めて説明を行い、目標を達成できるようにしていきます。それに伴い、事務局メンバーとして後身の育成も合わせて行っていきます。

また生産量が増加したことにより、投入資源量が多くなっているため、排水設備処理能力の確認を行い、削減のみにとらわれるだけでなく、自然環境にも配慮して活動を行っていきます。